

本調査の特徴

本調査は、日本が少子高齢化社会を迎える時代において、子どもが生まれ、育つためにより良い環境とは何か、親にとって楽しく子育てのできる環境とはどのようなものかを探ることを目的に実施している。本調査は、経年での比較ができるように設計し、かつ一部のグループには縦断調査を行う予定である。

本調査の特徴は、以下のようにまとめられる。

1. 妊娠期から2歳までのはじめての子どもを持つ保護者(妻・夫)の子育て、仕事、夫婦関係などに対する意識と実態について、幅広くとらえることができる

はじめての子どもを持つ妻・夫を対象に、妊娠・出産の実態、親準備性、夫婦の愛情関係、仕事と家庭のバランス、子育ての実態、子育ての環境、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)との関連など、妊娠・出産・育児にかかわる意識と実態について広範囲にきいている。(*QOLについての説明は調査概要をご参照ください)

2. 妊娠(出産)期から、育児期(2歳児まで)の妻と夫の意識と実態の違いについて、全国を対象としかつ大規模なサンプル数で把握することができる

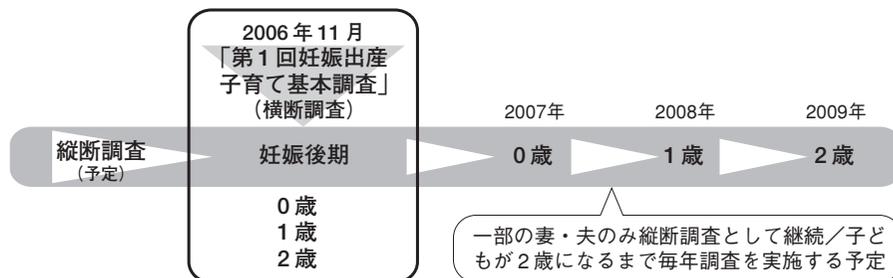
今回の調査は、妊娠後期から2歳の子どもを持つ妻・夫を対象としており、妻と夫の子育て、仕事、夫婦関係などの意識や実態にどのような違いがあるのかを、全国を調査対象とし、かつ大規模なサンプル数でとらえることができる。

3. 経年比較に配慮した設計にしている

調査設計にあたっては、経年比較が可能なように、妻・夫の子育ての環境、仕事、夫婦関係などの意識や実態を考えるうえで基本的な項目を選択して、調査内容を構成した。

4. 一部のグループで縦断調査を行い、時間の経過を追う設計にしている

妊娠後期から、子どもが2歳までの4年間、一部のグループ(約400組の夫婦)を対象に、毎年追跡調査を行い、妊娠・出産・育児期を通してどのように親になっていくのか、そのプロセスと因果関係を明らかにする設計にしている。



調査概要

1. **調査テーマ** はじめて子どもを持つ夫婦の妊娠期から育児期における家族のQOL*と子育ての環境との関連性、生活の実態など。
2. **調査方法** 郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）
3. **調査時期** 2006年11月2日～17日
4. **調査対象** 第1子を妊娠中（後期）の妻・夫
0～2歳の第1子を持つ妻・夫 *一人っ子である
5. **調査地域** 日本国内全域
6. **サンプル数** 配布数 16,000通
回収数 5,773通（回収率36.1%）
本報告の標本数（第1子を持つ、または妊娠中の妻・夫）4,479人
(人)

	妊娠中	子どもの年齢			合計
		0歳	1歳	2歳	
妻	728	832	623	405	2,588
夫	575	602	438	276	1,891
合計	1,303	1,434	1,061	681	4,479

7. **調査項目** 妊娠・出産の経緯、親準備性、家庭での養育機能、夫婦の相互サポート、夫婦の愛情関係、親と子のQOL*、子育てのストレス、ワークライフバランス、子どもの行動の特徴

*WHO(国際連合世界保健機関) QOLについて

QOL(クオリティ・オブ・ライフ、生活の質)とは、人々が感じている自分自身の生活の良質さのことです。『WHO QOL 26』は、国際連合世界保健機関(WHO)が定義する“健康”(身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること)の概念に沿って作成されました。今回の調査で使用したWHO開発の『WHO QOL 26』質問項目は、出版元、株式会社金子書房の許可を得て使用しました。